

平成 28 年度南予地方局予算の実施状況(H29.3.31 現在)

1 予算事項名 大洲喜多地区農地復活プロジェクト推進事業費

2 事業期間 平成 27 年度～平成 29 年度

3 所 管 産業経済部八幡浜支局地域農業室

4 事業概要

大洲・喜多地区の国営農地(440ha、65 団地)は、基幹作物の葉たばこ廃作等により、約3割の農地が未利用となっているため、モデル的な地域を重点地域として選定し、関係機関・団体による総合的な支援活動に取り組むことにより、国営農地の復活を図る。

	平成 28 年度
予算額	978 千円

3年間で重点地域の荒廃農地を半減！

開始時(H26) 27.4ha	H27 年度末 20.3ha	H28 年度末 15.2ha	目 標(H29) 13.7ha 以下
--------------------	-------------------	-------------------	-----------------------

5 28 年度の事業実施状況

(1) 支援チーム会の開催

関係市町、JA、地域農業室の担当者 12 人がメンバーとなり、関係機関・団体で組織する喜多広域営農団地推進協議会に「農地復活プロジェクトチーム」を設置した。

適宜、チーム会を開催し、情報を共有しながら地域の実情に合った耕作放棄地再生方策を検討した。

(2) 重点地域集落座談会の開催

重点地域として選定した大洲市松久保地区、八多浪地区、内子町長田地区、池田地区において、集落座談会等を開催しながら、各地区の耕作放棄地再生方策や農地利用計画を検討した。



松久保地区の農地利用計画

(3) 耕作放棄地解消対策研修会の開催

重点地域の集落リーダー等を対象に、耕作放棄地の解消や荒廃防止のため、クリの生産振興を促すための視察研修会(移動研修会)を開催した。

(4) 耕作放棄地再生技術の実証・展示

重点地域において耕作放棄地再生技術の実証展示園を設置し、未利用農地の荒廃防止及び再生利用に必要な被覆作物利用技術の確立・普及を図っている。

① 葉たばこ等休閑農地の緑肥作物利用技術実証

ヘアリーベッチによるカボチャのリビングマルチ栽培

② 果樹園(クリ、ナシ等)の被覆作物利用技術実証

ナギナタガヤによるクリの草生栽培



クリ園の省力管理に有効な
ナギナタガヤ(H28.10.19 播種)

(5) 既参入企業意見交換会の開催

既参入企業と地域住民等との意思疎通を図り、地域農業の活性化に結び付けていけるよう、地域住民や青年農業者との意見交換会を開催した。

耕作放棄地の解消に被覆作物(カバークロープ)を活用

ヘアリーベッチで農地再生



セイタカアワダチソウで覆われた農地を再生(H27.10.29)



ヘアリーベッチを播種して土壌改良効果を実証(H27.12.24)



紫色の花を咲かせ、地表に繁茂して雑草を抑制(H28.5.27)



再生農地は法人がタマネギ栽培に



◆再生農地を含め松久保団地 4.2ha に八幡浜市の農業法人が参入し、こだわりのタマネギを自社生産。今秋から栽培を開始。(農地中間管理事業を活用)

クリ園の管理にはナギナタガヤを



イネ科雑草で覆われたクリ新植園を除草(H28.10.7)



ロータリーで軽く耕耘し、ナギナタガヤを播種(H28.10.19)



播種後1週間くらいで発芽し始める(H28.12.8)



ナギナタガヤによる草生栽培

◆ナギナタガヤを9月~10月に播種すると春に伸長・出穂し、5月に自然倒伏する。枯れた茎葉のマルチング効果によって雑草を抑制するほか、根に寄生するVA菌根菌が果樹の生育を活性化させる。



山口県農業試験場「クリ園の省力及び環境保全型土壌管理技術」